

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

2025年度 2026.03.19

法人名	社会福祉法人吉田福祉会	代表者	理事長 前山 千恵子	法人・事業所の 特徴	吉田北地区の公園内に位置しており、保育所や公民館に隣接しています。日中は園児たちの元気な声が聞こえ、時々散歩の途中や帰宅前に顔を見せに寄ってくれたりします。また公民館の行事には積極的に参加し、地域とのふれあいを大切にしています
事業所名	小規模多機能センター —さわらび	管理者	管理者 斎藤 義文		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	2人	1人	人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	介護サービスの質の向上を図るため、不適切なケアについて日頃から職員間で意見交換しながら、改善点があれば全職員で共有し、速やかに取り組み対応する。	サービスの質の向上を図るべく掲げた【さわらび運営理念】を毎月のスタッフ会議にて確認し、職員個々に意識しながら業務に当たるべく取組んだ	特になし	介護サービスの質の向上を図るため、職員間の良好なコミュニケーションを保つべく日頃から互いの良いところを探しながら業務に当たる
B. 事業所のしつらえ・環境	環境係だけに任せることなく、職員全員がご利用者目線で居心地の良い環境づくりについて意見、アイデアを出すべく、スタッフ会議にて定期的に意見交換する	テーブルの位置を変える等し自立歩行の障害にならないよう動線上の整理を行った。ご利用者と共に制作した作品を飾り話題づくりにした。	特になし	常にご利用者目線で業務にあたり、日々のミーティングやスタッフ会議において意見を集約し、改善あるべき個所は速やかに対応する
C. 事業所と地域のかかわり	昨年初開催した北地区勉強会を継続して行うべく、内容、集客方法等の検討を図り、定期開催につなげる	勉強会の開催にはいたらなかった。北地区支え合い活動推進委員会にオブザーバーとして地域活動に参画した	北地区支え合い活動委員会が立ち上がり、当事業所も協力参加し、地域とのつながりができてよい	北地区支え合い活動推進委員会への参加を継続しながら、事業所や地域の介護サービスの情報提供を行う
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の困りごとや意見の聴取及び協力を求める場として地区勉強会を定期開催する	連携を必要とする事案は生じなかった。地域包括支援センターからの情報提供のみであった。	特になし	地域の活動に参加し、情報発信広報を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議において、事業所のサービス提供事例や困難事例等について共有し、意見を頂くようにするとともに、地域での困りごと等があれば検討を図る。	定期開催できた。開催時は情報提供が主となっており、地域での困りごと等の把握検討にはいたらなかった。	特になし	運営推進会議において、事業所のサービス提供事例や困難事例等について共有し、意見を頂くようにするとともに、地域での困りごと等があれば検討を図る。
F. 事業所の防災・災害対策	災害備蓄品（食品・物品・設備）の点検と見直しを図る。災害に備えた職員訓練を行う。	災害備蓄品の点検見直しを行い、備蓄食水の入替、補充。発災後の備品設置訓練を行った。	特になし	災害備蓄品（食品・物品・設備）の点検と見直しを図る。災害に備えた職員訓練を行う。